**准校長　渋川　雅宏**

**令和６年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| 生徒、保護者、教職員が「みんなの大手前　みんなが大手前」と誇れる学校づくりをめざす。１　生徒のニーズや学力に沿ったきめ細かい授業を展開し、「自己実現のサポート」体制を充実させる。２　幅広い年齢層や多様な価値観を持つ生徒が、「入ってよかったと実感できる学校」づくりを推進する。３　現代社会を生き抜いていくための基本的な資質や能力を備え、「社会の一員として自立」した生活を営むことのできる力を養う。 |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| **１　魅力ある授業づくりによる学力の向上**1. 自作のテストや学力調査を用いて学力、習熟度を正確に把握し学力の向上を図る。

※授業アンケート「授業の進度や難易度は自分にとって適切である」の肯定率をＲ８も80％以上を維持する。（Ｒ３：85％、Ｒ４：90％、Ｒ５：94％）1. タブレット端末やICT機器を活用して視覚支援を行い、魅力的で分かりやすい授業実践を進める。

※学校教育自己診断の「教え方に工夫している先生が多い」（生徒）の項目の肯定的率をＲ８も80％以上を維持する。（Ｒ３：89.4％、Ｒ４：94.3％、Ｒ５：96.7％）1. 教員同士で意見交換を行い、学びあえる機会を保障し授業力の向上を図る。
2. 定時制高校相互の授業見学を行い他校の先進事例の研究を推進する。

**２　支援体制の強化による自立自己実現の達成**1. 個に応じた支援体制の強化に向けた取組みを充実させる。

※学校教育自己診断（生徒）における「先生たちは、自分たちが困っていることについて支援してくれる。」の肯定率をＲ８も75％以上を維持する。（Ｒ３：86.7％、Ｒ４：83.3％、Ｒ５：85.7％）（２）教育相談支援委員会の機能を充実させ支援力の向上を図る。（３）日本語指導の充実を図り、外国籍や外国にルーツのある生徒の支援を強化する。　　　※授業アンケート「日本語指導の満足度」をＲ８も70％以上を維持する。（Ｒ３：100％、Ｒ４：100％、Ｒ５：99.5％）（４）生徒支援のため地域の関係諸機関との連携を強化する。（５）人権意識の向上を図り「ともに学びともに育つ」環境の構築に努める。　　　※学校教育自己診断（生徒）における「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率をＲ８も80％以上を維持する。　　　（Ｒ３：82.6％、Ｒ４：90.3％、Ｒ５：90.3％）　　**３　キャリア教育の充実による進路の保障**1. 入学から卒業までの４年間（３年間）を見通したキャリア教育を実践する。
2. CCと連携して進路指導、就労への支援を強化し就職率の向上を図る。

※学校教育自己診断（生徒）における「将来の進路や生き方について考える機会がある」肯定率をＲ８も70％以上にする。（Ｒ３：85.1％、Ｒ４：81.3％、Ｒ５：86.7％）※アルバイト、非正規雇用も含めた就職率100％を達成する。[100%]（３）卒業後長く働き続けることができるよう、研修やアフターフォローなどの取組みを充実させる。（４）大学進学希望者に対し、希望している進路が実現するよう支援体制を強化する。　　　※学校教育自己診断（生徒）における「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる。」の肯定率をＲ８も85％以上を維持する。（Ｒ３：95.7％、Ｒ４：96.9％、Ｒ５：92.9％）**４　学校力の向上**1. 志願者数確保のための広報活動を活性化させる。
2. 落ち着いた学習環境を維持し新たな生徒指導体制を構築する。

※学校教育自己診断（教員）における「この学校では、生徒の話をよく聞いて丁寧な生徒指導を行っている。」の肯定率をＲ８も90％以上にする。（Ｒ３：88.2％、Ｒ４：100％、Ｒ５：100％）1. 災害から日常の緊急対応にいたるまで、生徒の安全・安心を守るための体制を構築する。

（４）放課後や授業開始前の時間を有効活用し、活き活きとした学校生活を送るための環境を整備する。（５）教職員の働き方改革を進めて風通しの良い職場環境を構築し、何事にも組織として対応できる教職員集団を形成する。 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［令和６年12月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
| １．授業について生徒の肯定的意見が「４教え方に工夫をしている先生が多い」が100％、「５授業の初めに段取りを示してくれる先生が多い」が100％、「18授業などでコンピュータやプロジェクターが活用される機会がよくある」は96.9％、「21学校は１人１台端末の効果的な活用のために取り組んでいる」が93.9％と、いずれも昨年度より高く評価されている。また、保護者の「３子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている」は100％と、こちらも昨年度より高く評価されている。　教員の取組みとしても７～10の項目については昨年度よりポイントがさらに増加しており、「６年間の学習指導計画について、各教科で話し合っている」については昨年より6.5ポイント減少してしまったが82.4％と高い数値となっている。「楽しくわかりやすい授業」の実現に向けて、今後も日々努力し続けなくてはならない。２．生徒によるアンケート結果から　　生徒の肯定的意見が80％を切っているのは１つ。・「１学校に行くのが楽しい」84.8％は昨年度と比べると1.4ポイント減少した。４年生では70.0％と少し低くなっているが、４年生の９割の生徒が「学校生活についての先生の指導」に納得し８割の生徒が「学校に来ること」に意味を見いだしている。今後も努力を惜しまないようにしたい。・「６悩みや相談を親身になって聞いてくれる先生が多い」は93.8％、「７先生はいじめなどについて真剣に対応してくれる」は92.0％、「８担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる」は87.9％と肯定的意見の割合が高く維持されているので、今後もより相談しやすい関係を築いていきたい。・「14部活動は、自分にとって有意義な時間だ」が78.6％と大幅に減少した。部活動に参加していない生徒にも回答してもらったからかと考えられる。ただ、部活動に参加していない生徒が多いことについては、部活動は生徒の主体的・自主的な活動が基本なので簡単ではないが、何らかの対策が必要かと思う。３．保護者によるアンケート結果から　　今回、ほとんどの項目で昨年度より高評価をいただいたなかで、「10この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」は70.0％と昨年度から15ポイントも減少してしまった。夜の時間帯での参加ということで難しいこともあるのだと思われるが、生徒たちの頑張っている姿を是非見に来ていただけたらと思う。４．教員によるアンケート結果から・「６年間の学習指導計画について、各教科で話し合っている」82.4％、「８この学校では、創意工夫を生かした「いきいき」の時間を実施している」90.0％、「９生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している」94.4％、「36学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」100％と指導方法の研究・工夫・改善への取組みが見られるが、「５教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」は72.2％と大きく減少している。今後も、「教員の間で、授業方法等について検討する機会」を積極的に持ち、「他教科の担当者とも話し合いながら指導方法の研究・工夫・改善」にさらに努めていきたい。・「14教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」94.7％、「20学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」95.0％と学校生活全般にわたって生徒の指導について肯定的意見が増加した一方、「12生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている」35.0％、「13様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で取り組んでいる」57.9％は他の項目と比較して数値が低く、「15生徒指導において、警察・少年サポートセンター・子ども家庭センター等の関係諸機関との連携ができている」70.6％、「16この学校では、生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている」80.0％は肯定的意見が大きく減少している。教員自ら問題意識を持ち改善していく必要がある。・「25教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」38.9％、「26各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」44.4％、「27学年会、分掌会議、委員会が教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している」52.6％、「28教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」33.3％、「35初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」50.5％など肯定的意見が昨年よりさらに減少した項目がある。学校組織として改善のための取組みが必要である。・「32この学校では、図書館が生徒に活用されている」の肯定的意見が77.8％と昨年度の数値からさらにポイントが増加した。先生方の様々な改善のための取組みが実を結んだ結果である。 | 第１回（７月10日）・個に応じた指導体制は構築されている。学年の枠を超え共通の課題に対応できる指導体制を作り上げる必要があるのではないか。・教員と生徒をつなぐ外部人材を上手に活用し、新たなカリキュラムの作成に役立てる必要があるのではないか。・入学者数の減少が続いているが市町村の教育委員会と連携した取組みも必要ではないかと感じる。・カリキュラム改革を行う際に、例えば「コミュニケーションの支援を丁寧にするような授業」や「外国にルーツを持つ生徒の母語保障をするような授業」を適切な名称に読み替えて、学校設定科目を作っていってはどうか。・大阪府には不登校の府立高校生のための適応指導教室があり活用することができるので、そのような施設を活用し連携していくことが大切である。第２回（11月14日）・授業見学を行ったが、教員の多忙化が問題になる中、しっかりと準備を行って授業を展開している。・授業前に教員が生徒への声掛けを丁寧に行っており、不登校経験者など配慮が必要な生徒に対してきめ細かな指導を行っている。・授業において視覚支援ができている。・授業が始まる前の生徒と先生の会話に、不登校を防げるようなヒントを見出せたように感じた。・発達障がいのある子どもたちが多い場合、健康や生活に興味がない生徒が増加しているという仮説があり、大事な土台であるというところから入った方が良いと感じた。・評価（点数）に現れない力、見えない個々の才能を伸ばしてあげたい。そのようなところも教育方針にあればなお良いと思う。第３回（２月20日）・第２回で評価が低かった教科も高い評価を得ており安心した。・定時制高校には人生経験豊富な生徒もおり、通信制にはない良さがある。もっと定時制高校を活用してもらえるよう、広報活動に努めてほし。・紙媒体の資料のほうがICT機器よりも一時にたくさんの情報を得られることがある。紙媒体も大切にしてほしい。・学校教育自己診断（生徒）で、「担任の先生以外にも相談できる先生がいる」の評価が上がっている。担任だけでなく学年として、学校全体として、生徒全体を見ていくことが反映されており、良い数字であると思う。・定時制の場合は、生徒に年齢差がある中で、人生経験が豊富な人からアドバイスがもらえるので、もっと活用すれば良いと思う。 |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標[R５年度値] | 自己評価 |
| 　　　１　魅力ある授業づくりによる学力の向上 | （１）自作のテストや学力調査を用いて学力、習熟度を正確に把握し学力の向上を図る。（２）タブレット端末やICT機器を活用して視覚支援を行い、魅力的で分かりやすい授業実践を進める。（３）教員同士で意見交換を行い、学びあえる機会を保障し授業力の向上を図る。（４）定時制高校相互の授業見学を行い他校の先進事例の研究を推進する。 | ア・１学年では、高校入学後、定期考査を受験する「方法」の学びも含め、適切な時期を設定し、数学基本力調査や自作の漢字検定、日本語能力診断テストを行い、学力、習熟度を把握して、授業の重点内容に反映させる。ア・創意・工夫された授業や生徒の主体的な学びの促進に向け、１人１台端末・ICT機器や視覚教材を活用した、魅力的でわかりやすい授業実践を進める。イ・魅力的な授業を展開できるよう、タブレット端末や電子黒板などのICT機器をツールとして有効活用する方法について研究を進める。ア・「３つの観点に基づく学力の伸長」をねらいとした研究公開授業週間を実施し、教職員同士で学びあえる機会となるよう工夫する。イ・電子黒板を活用した研究授業を実施し、授業後は研究協議を行うことにより教員自らが「授業力を向上させたい」と自発的に行動できる環境を構築する。ア・他の定時制高校で実施される公開研究授業に積極的に参加し、優れた授業実践から学び授業改善に繋げる。イ・他府県の定時制高校の授業見学を行い、先進的な取組みや地域の独自性を活かした授業実践から学び、定時制高校ならではの授業の構築を図る。 | ア・授業アンケート「授業の進度や難易度は自分にとって適切である」の肯定率80％以上を維持する。［94.4％］ア・学校教育自己診断の以下の指標・「教え方に工夫している先生が多い」（生徒）の項目の肯定的意見80％以上[96.7％]を維持する。・「生徒の学習意欲に応じて学習指導方法や内容について工夫している」（教員）の項目の肯定的意見85％以上[88.2％]を維持する。・「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」（保護者）の項目の肯定的意見70％以上[90.9％]を維持する。イ・タブレット端末や電子黒板などICT機器を有効に活用するための研修に１回以上参加し、校内において伝達研修を実施する。ア・校内授業実践研究計画のもと、「公開授業週間用授業参観シート」等を作成し、情報共有する。イ・有志による研究授業を１回以上実施する。ア・年間に５回以上他校の公開研究　 授業に参加する。イ・他府県の授業見学を年間１回以上実施する。[２回] | ア・第１回授業アンケートでは90.3％、第　 ２回授業アンケートでは93％、総合91.7％であった。（〇）ア・学校教育自己診断における・「教え方に工夫している先生が多い」（生徒）の項目における肯定的意見は　100％となった。（◎）・「生徒の学習意欲に応じて学習指導方　法や内容について工夫している」（教員）の項目における肯定的意見は94.4％となった。（〇）　・「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」（保護者）の項目における肯定的意見は100％となった。（◎）イ・大学における先端のICT授業の視察を行い、職員会議においてミニ研修を実施して情報共有を行った。（〇）ア・公開授業週間において、授業見学に「公開授業週間用授業参観シート」を作成し、一覧表にまとめて情報共有と意見交換を行った。（〇）イ・研究授業の実施について募集を行った　 が、申し出がなかったため実施することができなかった。（△）ア・他校の公開授業や研究授業などに、５　　　　人の教員が、合計９回参加することができた。参加後は教科会議などで情報共有を行い授業力の向上に役立てることができた。（〇）イ・近隣県の防災に関する授業見学を行い、防災教育実践員会で情報共有し、本校における避難訓練や防災教育の実施に役立てることができた。（〇） |
| 　 ２　支援体制の強化による自立自己実現の達成 | 1. 個に応じた

支援体制の強化に向けた取組みを充実させる。（２）校内生徒支援委員会の機能を充実させ支援力の向上を図る。（３）日本語指導の充実を図り、外国籍や外国にルーツのある生徒の支援を強化する。（４）生徒支援のため地域の関係諸機関との連携を強化する。（５）人権意識の向上を図り「ともに学びともに育つ」環境の構築に努める。 | ア・中学校や福祉機関等と連携して、新入生の生徒情報を収集し、「高校生活支援カード」に集約する。イ・全教職員が生徒の情報を共有し、生徒一人ひとりへの細やかな支援方策を検討する。細やかな指導で卒業まで個別支援を行う。ア・要配慮生徒や課題を抱える生徒の状況把握と情報共有に努め、生徒支援体制を充実させるとともに、SC及びSSWとの連携を強化し生徒支援を充実させる。教育相談支援委員会においてSC、SSWとの連携を強化する。ア・「いきいき」（総合的な探究の時間）及び０限に日本語指導の講座を開設し、日本語指導の充実を図る。イ・日本語指導や多文化教育研修に参加し、そ　　の知見を共有する。ア・地域とのつながりを発展させ、教育活動における地域とのかかわりを深める。地域の関係諸機関（社会福祉協議会等）との連携を強化する。ア・系統立てた人権研修を実施し、教職員の人権意識の向上を図る。イ・人権教育推進委員会を活性化させ、人権ホ　　ームルームを充実させるとともに生徒向けの人権講演会を実施し、生徒の差別や偏見を許さない環境を構築する。 | ア・「高校生活支援カード」の作成、活用率100%[100％]にする。・入学した生徒の出身中学へ訪問して聞き取った内容をSSWと共有する。イ・卒業予定者数に対する卒業率を80%以上[100％]を維持する。・学校教育自己診断（生徒）における「先生たちは、自分たちが困っていることについて支援してくれる。」の肯定率75％以上[85.7％]を維持する。・学校教育自己診断（教職員）における「生徒一人ひとりへの細やかな支援の方策を検討している。」の肯定率75％以上[94.1％]を維持する。ア・SC、SSWいずれかが同席の校内生徒支援委員会をはじめとする各種会議を年間10回以上[10回]実施する。・「大手前アセスメント・プランニングシート」を教育相談支援委員会で資料として必要に応じて活用する。ア・授業アンケート「日本語指導の　　満足度」70％以上[99.5％]を維持する。イ・研修に参加して得た知見を関係職員に報告し、情報共有を図る。ア・教員による関係諸機関が主催するイベントや会合に年間１回以上参加する。ア・教職員向けの人権研修を年間５回以上実施し、そのうち１回は全日制と共同開催とする。[６回]イ・生徒向け人権講演会を年間１回以上実施する。[２回]　・学校教育自己診断（生徒）における「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率80％以上を維持する。[90.3％] | ア・全生徒が作成し入学直後の懇談時に活　 用した。（〇）　・訪問もしくは電話で聞き取りを行い校内生徒支援委員会でSSWと情報共有を行った。（〇）イ・休学中の生徒２名を除く10名の４年　　生全員が卒業することができた。100％（〇）・生徒による学校教育自己診断の項目「先生たちは、自分たちが困っていることについて支援してくれる。」の肯定率は90.6％になった。（〇）・教職員による学校教育自己診断の項目「生徒一人ひとりへの細やかな支援の方策を検討している。」の肯定率は89.5％になった。（〇）ア・校内生徒支援委員会をはじめ学年会やケース会議など年間10回の会議にいずれかが同席し、実施することができた。（〇）・「大手前アセスメント・プランニングシート」は校内生徒支援委員会で活用したほか、報告書の作成や年度替わりの生徒の引き継ぎ資料として大いに活用することができた。（〇）ア・第１回授業アンケートでは92.5%、第　　　　　２回授業アンケートでは94.5％、総合93.5％であった。（〇）イ・日本語指導の研修に複数回参加し、研修内容、研修資料を教科会議において情報共有を行った。（〇）ア・「北御堂フードパントリー×ワークパ　　ントリー」の実行委員会に加盟し、府立人研とも連携して子どもの居場所活動に協力することができた。（〇）ア・大阪府教育センター主催の人権研修　Ａ～Ｅの伝達研修と全日制と合同の人権研修（同和問題）の合計６回実施した。（〇）イ・外部団体に依頼して反戦、平和、核兵　　器の恐ろしさについての講習会を行った。また外部講師に依頼してSNSに関する適切な関わり方に関する研修を行った。合計２回（〇）・学校教育自己診断（生徒）における「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率は100％となった。（◎） |
| 　 ３　キャ　リ　ア教育の充実による進路の保障 | （１）入学から卒業までの４年間（３年間）を見通したキャリア教育を実践する。（２）CCと連携して進路指導、就労への支援を強化し就職率の向上を図る。（３）卒業後長く働き続けることができるよう、研修やアフターフォローなどの取組みを充実させる。（４）大学進学希望者に対し、希望している進路が実現するよう支援体制を強化する。 | ア・各学年の進路HRや進路講演会、個別面談等を通じて就労、進学へ結びつける指導を推進する。イ・「進路だより」を発行し保護者に学校での指導の様子を知らせ、家庭と連携したキャリア教育を実践する。またホームページにも掲載することにより地域や企業との連携を図る。ウ・在学中に適性検査を実施し、各自が持つ潜在的な能力や適性を把握してキャリアを考える資料として活用するア・就労意識の向上と社会体験を積むことを目的にアルバイトへの挑戦、継続を支援する。イ・「いきいき」（総合的な探究の時間）に進路に特化した講座を設け、就職希望者の内定率を高めるための勉強会や就職試験対策に関する取組みを充実させる。　　ア・就職希望者が職業に対する正しい知見を得たり、自分に適した職業を選択したりできるような取組みを充実させる。イ・卒業後すぐに退職してしまうことが無いよう、長く働き続けるための支援を充実させる。ア・「いきいき」（総合的な探究の時間）の時間や、放課後や始業前の時間を活用し進学指導体制の充実を図る。イ・HRや懇談会等を活用して奨学金制度について周知し、大学進学にあたって課題を抱えている生徒を支援する。 | ア・各学年就職、進学へ結びつける指導を、１～３年生は年間４回以上、４年生は実15回以上施する。[１年８回、２年10回、３年11回、４年30回]イ・「進路だより」について年間５回以上[５回]発行しすべてホームページに掲載する。ウ・最終学年（３年次、４年次）までに職業レディネステストまたは職業適性検査を実施し、ホームルームや「いきいき」（総合的な探究の時間）で活用する。ア・アルバイトを希望する生徒全員に具体的な取組みを実行する。イ・学校教育自己診断（生徒）における「将来の進路や生き方について考える機会がある」を70％以上を維持する。[86.7％]・アルバイト、非正規雇用も含め　　た就職率100％を達成する。　　[100%]ア・外部講師を招いての進路講演会を年間１回以上実施する。[１回]イ・教員によるアフターフォローのための企業訪問を年間１回以上実施する。ア・大学進学希望者全員の進路を決定する。イ・学校教育自己診断（生徒）における「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる。」の肯定率85％以上を維持する。[92.9％] | ア・４年生の進路HRを年間30回実施した。（〇）・進路HRを１年生は16回、２年生は　10回、３年生は10回実施した。（〇）イ・「進路だより」を年間５回紙媒体で発行するとともに、すべてホームページに公開し、保護者や関係機関と情報共有を図ることができた。（〇）ウ・3,4年生に職業適性検査を実施し、検査の結果については適宜ホームルームや「いきいき」(総合的な探究の時間)で活用することができた。（〇）ア・アルバイトを希望する３名の生徒全員に対し、面接練習などの具体的な取組みを行った。100％。（〇）イ・学校教育自己診断（生徒）における「将来の進路や生き方について考える機会がある」は93.3％となった。（〇）・就職希望者１名の進路が決定した。（〇）ア・卒業生２名を外部講師として招き、進学・就職それぞれについて、講演会を実施した。（〇）イ・卒業３年以内の生徒の就職先に訪問を行い、卒業生が困っていることがないかなどを確認した。（〇）　　　　　　　　　　　　　　ア・進学希望者５名（大学、専門学校）全員の進学先が決定した。（〇）　イ・学校教育自己診断（生徒）における「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる。」の肯定率は96.8％となった。（〇） |
| ４学校力の向上 | （１）志願者数確保のための広報活動を活性化させる。 （２）落ち着いた学習環境の維持し新たな生徒指導体制を構築する。（３）災害から日常の緊急対応にいたるまで、生徒の安全・安心を守るための体制を構築する。（４）放課後や授業開始前の時間を有効活用し、活き活きとした学校生活を送るための環境を整備する。（５）教職員の働き方改革を進めて風通しの良い職場環境を構築し、何事にも組織として対応できる教職員集団を形成する。 | ア・夜間学級以外の中学校へも広報活動を積極的に行い、学齢期の生徒確保に繋げる。イ・学校ホームページや学校案内パンフレットを有効活用し本校の良さをアピールする機会を増やす。ア・学校生活のマナーについて組織的な指導体制を構築し、生徒が安心して学習に取組める環境を構築する。イ・生徒指導部を中心に登校指導や授業中の巡回を行い、生徒が落ち着いた学習環境で学ぶことができるよう規律指導を行う。ア・区役所や消防署、地域と連携した訓練を実施し安全安心な学校、地域づくりを促進する。イ・防災アドバイザー派遣事業を活用して効果的な研修を実施し教職員の防災意識と危機管理能力を向上させる。ア・年度当初だけでなく年間を通じて部活動への参加を呼びかけ部員増加につなげるとともに、活動内容の充実を図る。イ・学力の向上及び余暇を活用する力の向上のために、図書館を有効活用できるよう啓発活動に努める。ア・ノークラブデー、全庁一斉体調日、夏季冬季休業中の学校閉庁日の実施を徹底する。イ・教職員一人ひとりと対話する時間を増やし、困りごとを一人で抱え込まないよう啓発に努める。　・首席会（管理職と首席による情報共有の会）や担任の情報交換会を適宜開催し、各学年、各分掌の現状や課題について情報共有を行い、組織としての対応力を向上させる。 | ア・在校生の出身校に現状の報告を　 行うとともに、本校の学校パン　 フレットを持参して広報活動を　 行う。イ・学校ブログを月２回以上更新する。ア・学校教育自己診断（教員）における「この学校では、生徒の話をよく聞いて丁寧な生徒指導を行っている。」の肯定率を90％[100％]以上を維持する。イ・授業アンケート「授業中は集中して先生の話を聞いて学習に取り組んでいる。」を85％以上[97.3％]を維持する。ア・定時制（教職員・生徒）と地域自治会の共催による災害時避難所実習（訓練）を実施する。イ・全日制と合同の教職員防災講演会を実施する。ア・部活動に入部する生徒の割合30％以上を維持する。[36％]　・文化祭に部活動から舞台の部もしくは展示の部において発表を行う。イ・図書の貸出し数を増加させられるよう工夫を凝らした啓発活動を実施し、年間の貸出し数を50冊以上にする。ア・ストレスチェックにおける総合健康リスクを向上させる。[92％]イ・学校教育自己診断（教員）の以下の項目について肯定率[75％]以上にする。・「問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている。」[64.7％]・「問題行動防止のための早期指導に学校全体で取組んでいる」[72.2％]・「適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」[47.4％]・「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」[50％] | ア・在校生の出身校も含めて近隣の中学校20校を訪問し、在校生の現状報告と本校を進学先として検討してもらえるよう広報活動を行った。また、地域の社会福祉協議会や子ども・若者支援地域協議会において、学校案内・説明を行い、地域との連携を深めることができた。（◎）イ・准校長ブログを作成し、４月以降写真　　も添付して毎月２回以上、合計25件の更新を行い情報発信に努めた。（〇） （１月現在）ア・学校教育自己診断（教員）における「この学校では、生徒の話をよく聞いて丁寧な生徒指導を行っている。」の肯定率は90.0％となった。（〇）イ・第１回授業アンケートでは92.5％、第　 ２回授業アンケートでは94.3％、総合93.4％であった。（〇）ア・11月に地域、区役所、警察署、消防署　 と連携した、避難所解説実習を実施した。これまで教員のみの参加であったが、今年度初めて生徒も参加することができた。（〇）イ・12月に全日制と合同の防災研修会を　　実施し学校防災アドバイザーから、様々な指導助言を得ることができた。（〇）ア・在籍47名中20名が部活動に参加し参加率は42.6％となった。（〇）　・舞台の部において軽音楽部が、展示の部において美術部、書道部が発表を行い日頃の活動の成果を発揮することができた。（〇）イ・図書館だよりを毎月発行し啓発に努めた。また、図書館のホワイトボードに毎月のテーマや関連するポスター等を掲示して啓発に努め、年間の貸し出し数は77冊となった。（〇）ア・ストレスチェックにおける総合健康リスクは115となり昨年を大きく下回った。（△）イ・学校教育自己診断（教員）における・「問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている。」の肯定率は35％にとどまった。（△）・「問題行動防止のための早期指導に学校全体で取組んでいる」の肯定率は57.9％にとどまった。（△）・「適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」の肯定率は38.9％にとどまった。（△）・「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の肯定率は44.4％にとどまった。（△） |